

1. 概要

2019年12月14日(土)に、千葉大学公共学会が主催し、第1回SDGs日本政策学生研究会が開催されました。環境省、サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)、サステナビリティ日本フォーラムから、後援名義をいただきました。会場は、千葉大学西千葉キャンパス法政経学部棟106教室、15~17演習室、22演習室(講師控室)です。大会では、全国6大学から12の発表が行われました。また、「SDG s に若者がとりくむことへの期待」というテーマで、松下和夫氏(京都大学名誉教授、地球環境戦略研究機関シニアフェロー、元環境省)と、後藤敏彦氏(サステナビリティ日本フォーラム代表理事、環境経営学会会長)から、それぞれ基調講演が行われました。基調講演内容と大会概要は、3月に刊行される、千葉大学公共学会の機関誌『公共研究』に掲載する予定です。

2. 開催の趣旨

国連持続可能な開発目標(SDG s)の実現に当たって、社会の持続可能性に関わる課題について、学生が主体的に調査研究を行い、その結果を行政、企業において持続可能性に関わる仕事をしている社会人に発表する機会を設けることが重要である。このことによって、学生の課題解決型研究活動の促進と、社会の持続可能性に関わる課題解決の推進を図ることができる。

このため、千葉大学公共学会が主催し、持続可能な開発目標の実現に向けた学生による政策提言研究会「SDG s 日本政策学生研究会」(Japan Inter-college Policy Studies for SDGs (JIPSS))を開催する。

対象となる調査研究としては、以下の要件を満たすものを想定している。

- 1) 持続可能な開発に関連する課題解決型のものであること
- 2) 課題に関連する社会の現場の状況を把握した上で検討されるものであること
- 3) 実現可能と考えられる政策提言を含むものであること

3. 分科会賞

分科会では、3つ設けられ、それぞれ4つの発表が行われました。分科会コメンテーターは、基調講演のおふたりに加えて、以下の皆さんにお願いしました。清家裕さん(環境省地球環境局総務課低炭素社会推進室室長補佐)、小野田真二さん(公益財団法人地球環境戦略研究機関持続可能性ガバナンスセンター研究員)、赤田啓伍さん(株式会社富士通総研オルタナティブ・フューチャーズヘルスケア・公共チームシニアコンサルタント)、氣仙佳奈さん(みずほ情報総研株式会社環境エネルギー第2部コンサルタント)。

分科会では、コメンテーターと報告者相互の投票により、分科会賞が選出されました。

第1分科会は、中松良希「アイヌ民族の権利を守る法制度は何か」(千葉大学)が選ばれました。

第2分科会では、密岡遼一、太野大成、西村宗晃、羽深公貴「離島におけるエネルギー自立ー与論島の特徴を活かしたエネルギー循環」(一橋大学)と、櫻庭有希子、中野若葉、堀井翔司「オイル産生藻の導入によるジェット燃料供給可能性について」(千葉大学)が選出されました。

第3分科会では、堀内愛友「タイラン島のごみ問題における入島税の多角的分析」(東京大学大学院)が選出されました。

4. 大会の様様



大石亜希子 公共学会会長挨拶



基調講演会場の模様



分科会会場の模様



松下さん基調講演



後藤さん基調講演



分科会賞 中松さん



分科会賞 密岡さん



分科会賞 堀井さん・櫻庭さん・中野さん



分科会賞 堀内さん

5. 大会来場者数

73 名

6. 大会スケジュール

- 2019年12月14日(土) 西千葉キャンパス法政経学部106教室
- 10:00 主催者挨拶 大石亜希子(千葉大学公共学会会長)
- 10:05 基調講演者、コメンテーター紹介
- 10:10-10:40 基調講演1「SDGsに若者がとりくむことへの期待」松下和夫氏(京都大学名誉教授、地球環境戦略研究機関シニアフェロー、元環境省)
- 10:40-10:50 分科会会場に移動<第一分科会演習室15、第二分科会演習室16、第三分科会演習室17>
- 10:50-11:20 分科会第一発表(20分発表、10分質疑・コメント)
- 11:20-11:50 分科会第二発表(20分発表、10分質疑・コメント)
- 11:50-13:15 昼食
- 13:15-13:45 分科会第三発表(20分発表、10分質疑・コメント)
- 13:45-14:15 分科会第四発表(20分発表、10分質疑・コメント)
- 14:25-14:55 基調講演2「SDGsに若者がとりくむことへの期待」後藤敏彦氏(サステナビリティ日本フォーラム代表理事、環境経営学会会長)
- 15:00-15:30 分科会賞発表(コメンテーターと発表者相互の投票によって決定)
- 15:30-16:00 コメンテーター総評、修了式、写真撮影
- 16:30-18:30 懇親会(@レストランコルザ) 会費2000円



7. 分科会一覧(報告順)

第一分科会 演習室15

コメンテーター				
松下和夫さん	京都大学名誉教授、地球環境戦略研究機関シニアフェロー、元環境省			
赤田啓伍さん	株式会社富士通総研 オルタナティブ・フューチャーズ ヘルスケア・公共チーム シニアコンサルタント			
発表代表者	所属	テーマ	SDGs番号	指導教員
高山 健	東京工業大学	太陽光発電事業における環境紛争発生要因に関する研究	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	錦澤滋雄
中松 良希	千葉大学	アイヌ民族の権利を守る法制度は何か	10.人や国の不平等をなくそう	小川玲子
遠藤 海咲	東邦大学	子どもたちへの環境教育活動における効果と展望	4.質の高い教育をみんなに	竹内彩乃
鈴木 雄吾	千葉大学	自動運転農機の導入による稲作農業の省力効果と今後の展望	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	倉飯秀史

発表論文



第二分科会 演習室16

コメンテーター				
清家 裕さん	環境省地球環境局総務課低炭素社会推進室室長補佐			
氣仙佳奈さん	みずほ情報総研株式会社環境エネルギー第2部コンサルタント			
発表代表者	所属	テーマ	SDGs番号	指導教員
堀井 翔司	千葉大学	オイル産生藻の導入によるジェット燃料供給可能性について	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	倉飯秀史
平井 雄二郎	千葉大学	持続可能な観光施策—コト消費で地方誘客を—	8.働きがいも経済成長も	大石亜希子
密岡 遼一	一橋大学	離島におけるエネルギー自立—与論島の特徴を活かしたエネルギー循環—	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	山下英俊
秀島 佑菜	東京大学大学院	SDGsと環境政策評価—バンコク都市気候変動マスタープランにおける適応策規定因調査を事例として—	13.気候変動に具体的な対策を	池本幸生

発表論文



第三分科会 演習室17

コメンテーター				
後藤敏彦さん	サステナビリティ日本フォーラム代表理事、環境経営学会会長			
小野田真二さん	公益財団法人地球環境戦略研究機関持続可能性ガバナンスセンター研究員			
発表代表者	所属	テーマ	SDGs番号	指導教員
堀内 愛友	東京大学大学院	タイ ラン島のごみ問題における入島税の多角的分析	11.住み続けられるまちづくりを	鈴木綾
石井 大登	千葉大学	小型家電販売におけるデポジット制度の導入可能性	12.つくる責任つかう責任	倉飯秀史
長谷川 沙綾	東邦大学	就活ポータルサイトにおける企業のGRI対応状況に関する情報比較機能の開発	8.働きがいも経済成長も	柴田裕希
黄 麗蕊	同志社大学	「都市鉱山」開発と自然鉱山開発におけるエネルギー消費量と環境負荷CO2排出量の比較分析—2018京都マラソン大会の金メダルに使われる金箔を都市鉱山から供給するプロジェクトを事例として—	12.つくる責任つかう責任	和田喜彦

発表論文



8. 大会における環境配慮

環境省の後援名義をいただくにあたって策定した環境配慮計画に則り、以下の環境配慮を行いました。来場者に事前に以下の内容を伝えました。

- ・ 環境負荷削減の観点から、なるべく公共交通機関でお越しください。最寄り駅は、JR 総武線西千葉駅、京成千葉線みどり台駅です。
- ・ ごみのお持ち帰りにご協力ください。
- ・ プラスチック・スマートの観点から、なるべくマイボトルをお持ちください。
- ・ 昼食は、キャンパス周辺で各自とってください。当日、昼食マップを配布します。
- ・ 会場の暖房は室温 19°Cを目安にコントロールします。暖かい格好でお越しください。
- ・ 当日、大会主催者からは、論文資料の配付は致しません。QR コードからアクセスして、各自ダウンロードしていただきます。追加資料の配付の判断は、発表者にお任せします。
- ・ 宿泊のあっせんなどはいたしません。必要な場合には各自手配ください。

当日の配付資料は、A4の両面印刷 1 枚とし、基調講演資料、分科会報告資料 QR コードにてダウンロード先に誘導し各自ダウンロードしていただきました。昼食マップも QR コードでグーグルマップ上に作成した大学周辺飲食店マップに誘導しました。

大会後に開催された懇親会（大学内レストランコルザ、会費制 2000 円、27 名参加）においても、食べきを心がけ、ほぼ食べきりました。

9. 大会収支

収入	136000
参加費	96000
公共学会対話研究会費	40000
支出	127026
基調講演講師謝金	40000
コメンテーター謝金	80000
基調講演・コメンテーター交通費	7026
次回開催基金組み入れ	8974

大会収支は、左の表の通りです。謝金・交通費の受け取りを辞退されたコメンテーターがいらっしゃいましたので、8974 円を次回開催基金に組み入れさせていただくことと致しました。感謝いたします。

10. 全体集合写真

